



## 「いの道をいく」 利用者さんと一緒に歩んで

理事長 早川 明

社会福祉法人つるかわ学園  
つるかわ学園を支える会  
☎195-0051  
東京都町田市真光寺町  
186番地  
T E L (042) 735-2220  
F A X (042) 736-6374  
HP:tsurukawa-gakuen.com

「後期高齢者」と書かれた通信類が自宅に届くようになり、これから後期高齢者の仲間に入るのだと痛感させられるこの頃です。前期高齢者は六十五歳から七十四歳まで、七十五歳以上はその心身の特性や生活実態に合わせて後期高齢者に区分され、入院や長期療養が多くなり四分の一の方は介護認定を受けるようになるらしいです。そろそろ終活を意識してねと言われているようです。

昭和五十一年夏、ヒグラシの鳴く富士学園で廣本前理事長に出会い、福祉の道に入り、転職も考えず「この道よりわれを生かす道はなし」この道をいく」に導かれて働いてきました。沢山の思い出の中で利用者さん（当時は園生さんと言っていた）と一緒に歩んできたことを思い出します。

施設の生活は働くこと（作業活動）と暮らしを楽しむこと（生活学習活動）で組み立てられています。学園の一年は菖の薹、野蒜採りから始まり、盆踊りでは一人ひとり色鮮やかな似合いの帯と浴衣、地域の婦人会青年団は揃いの浴衣、提灯や檐太鼓と輪舞。海水浴は二泊三日のホテル貸切で、夕食にはビールも出て大はしゃぎの宴会になります。秋空の運動会は騎馬戦もあり、皆さん大声を出しハッスルしすぎて喧嘩に発展してしまつこともありました。秋のパザールは、寄付物品依頼文作成から始まり、値札付け、搬送、販売と利用者さんともどもそれは大変でした。年末はクリスマス会、忘年会へ向け、居室ごとに密かに進める出し物準備、利用者の方はそわそわうきうき身も心も一直線で、当日の会場は

一幕ごとに拍手と笑いで一杯になっていきます。大きな行事には多くの保護者兄弟姉妹の方が協力してくださり互いの信頼関係と絆を深め合い、また東京都内での保護者会も開催することで、ご家族の希望などを聞き取り、利用者への支援につなげていきました。

初めて夜間の母豚の出産も経験しました。農場班のサツマイモを夜のおやつに出すときには、女子の利用者も手伝いに入ってバターと少量の砂糖を足し巾着を作ったりもしました。施設外で働く職場実習生の担当をした時には職場巡回もあり、気を遣いました。当時の施設職員の資質向上を目的に、昭和五十七年に「はじめて施設で働くあなたへ」が旧愛護協会から発行されています。てんかん、月刊愛護、月刊福祉も熟読し、愛護協会通信教育を受講するなど周りの職員に懸命に追い付こうとしたものです。

施設は入所型施設対通所型施設の構図になっていて、私は入所型施設で働いていたことになりました。業務に慣れるにつれて、隔離され過ぎた生活はおかしいのではないかという疑問を感じ、与えられる生活から選択する生活へと、職員一丸となって「生活圏拡大訓練」に取り組みました。バスの乗車下車時刻表の見方、電話

のかけ方、お金と値札の見方、時計の見方、マナーなどで、後日そのような活動が評価され五十五年NHK厚生文化事業団心身障害福祉賞をいただきました。

女子利用者は地域の茶道教室に入門して煎茶、作法を習い、赤い毛氈の部屋で着物に身を包んでお客様を接待していた風景は今でも色鮮やかに蘇ります。健康面では看護師の献身的働きで、成人病検診も大病院の協力を得て行われました。一日がかりの通院なので検診中粗相があつても大丈夫なように、バケツ雑巾肌着を用意して行きます。胃腸や内臓器官に奇形のある方もおり、その検診を基に生活の中の早期発見、治療も可能になりました。

振り返れば、自分の不注意による事故や上から目線の接し方等など忘れることの許されない失態もありましたが、上司同僚に助けられ仕事を続けられたと感謝しています。

四月は出会いの季節です。好感の持てる人もいれば、自分と合わないタイプも同数いるでしょう。その時に直感と叡智を以て判断し、受け入れられないことは避け、受け入れられることは受け入れ、しんどかったけど楽しかったねと、あとから話せる人生を創ってほしいと願っています。

各事業所管理者より

つるかわ学園

施設長 月岡 亮

コロナ禍で新年度を迎えるのも三回目となります。年明けからオミクロン株の猛威により依然として緊張から解放されない状況が続いております。

つるかわ学園においては、穏やかに新年度を迎えましたと言いたいところですが、昨年度末、施設内において新型コロナウイルス感染者が発生しました。幸いにも重篤化することもなく、一ヶ月程度の期間を要し終息いたしました。施設内感染の影響を受け、改めて支援の在り方や事業の継続性等考えさせられました。自然災害を含め有事の際にも安定的・継続的に質の高いサービスを提供できる体制を考えていきたいと思えます。

成田支援部長が三月末日付で退職しました。心穏やかで、みんなから信頼され、頼りになる存在でした。児童施設時代から三十二年間、長期にわたり法人を支えていただいたひ

とりとして敬意を表します。

退職にあたり、成田より一言

「ほんとうに、ありがとうございました!!」

成田 女里代

三月半ば、娘から生花が宅配便で届きました。「今頃、お花つてなせ?」と思っていると、「退職おめでとう。長い間お疲れ様!」と連絡が入りました。ついにやって来てしまった、新型コロナウイルスの対応に必死な私は、自分の退職なんてぶっ飛んでいたのです。

三月も末となり、やっとあと何日かで仕事も終わる...と考えられるようになりまし。

振り返ると、決して楽しく、よいことばかりではありませんでした。ノー天気な私が、ぐちゃし涙を流したこともありまし。でもこの仕事を辞めようと思ったことは一度もなく、利用者との関わり、スタッフと一緒に動き、協力し合っている、涙も忘れてしまいました。学園での仕事は私にとって「天職」だったよ

うに思います。

この三十年間で、利用者も私も年を重ねました。出来なくなってしまうことや、変わってしまったことを数えると、少々気が重くなります。しかし過去のことはいい思い出とし、今出来ること、これから出来ることを考え楽しみつづ、一日一日を丁寧に生きてゆきたいと思えます。

最後にこんな私に「天職」を与えて下さった、つるかわ学園で出会った全ての皆さまに心より感謝いたします。

ほんとうに、ほんとうにありがとうございました。



グループホーム・ドリーム

管理者 外川 珠枝

新緑の季節を迎え、新年度もスタートしました。

ドリーム事業所は、野津田、真光寺の二つのユニット、二十九歳から六十九歳で、平均年齢五十三歳。男女合わせて十六名の方がこの地域で暮らしております。

この十六名の方々をご紹介します。

皆さんに好きな物(食べ物、人趣味等)をインタビューしてみました。

それぞれ個性あふれる皆様と今年度も楽しみたいと思えます。どうぞよろしくお願致します。

ふじさん 大好きな食べ物	徳水
パズルが大好きです。	吉田
おかわさ	橋本
チリシ寿司が大好き	渡辺
フーとビール	横野
おんののやま	本間
旅行に行きたいわ	田代
ドムかすきせー	山崎
自分のおせきひらきたいです	青木
かりあげが大好きです	加藤
お母さん大好き	吉岡
両足車が好きです。	高橋
セーレいがかすの	堀起

町田通勤寮

寮長 三階 広明

新しい年度が始まります。今年は通勤寮職員も異動があり、なんとなく慌ただしい雰囲気の中で四月を迎えました。利用者さんは自分の担当

職員が誰になるのか気になっている  
ようです。保護者の皆さんにも機会  
を設け紹介していきたいと考えてい  
ます。

新たな体制でより充実した支援を  
目指し努力してまいりますのでよろ  
しく願います。

二月から四月にかけては支援学校  
高等部を卒業したばかりの新しい利  
用者さんが入寮する季節でもありま  
す。今年も五名の入寮がありました。  
また、卒業後仕事が落ち着いてから  
入寮を希望している方もいらっしゃる  
います。現在、男性は定員近くまで  
埋まっており、ご希望があっても当  
面「待機」となることをご了承いた  
だいていますが、女性は定員の半分  
ほどが空いている状態です。更なる  
利用者さんの確保に努めたいと思  
います。

通寮の利用者さんでは幸いにも  
「コロナ」の感染者は出ておりませ  
んが、「蔓延防止等重点措置」が解  
除になり、利用者さんの「気持ち」  
は少々「緩んで」きている雰囲気だ  
す。気を引き締めて対応をしていき  
たいと考えています。

そんな中でも、利用者さんのスト  
レス発散になる「楽しい」取り組み  
を何とか計画できれば、と考えてい

ます。(この二年間はほとんどの行  
事が中止となっており、外出の制限  
等もあり利用者さんの中には「もう  
限界。どっか遊びに行きたい。」と  
いう声があります。)



地域生活援助センター  
フクシア・成瀬寮事業所

管理者 大矢 浩之

利用者さんがフクシアの事務所に  
飾って欲しいとおっしゃって、ショ  
ラムを持ってきてくれました。それ  
は、「震災からのメッセージ 覚え  
ていますか!!」というテーマのも  
のでした。

東日本大震災から十一年が経ち、  
不自由なく生活できるのが当たり前  
になってしまい、「足るを知る」と  
いう言葉が、忘れ去られてしまっ  
ているように感じます。

「足るを知る」は老子が言った言  
葉とされ、「既に十分満足であるこ  
とを知っている」という意味があ  
ります。自分自身の仕事・生活に  
おいて、戦禍でもなく、災害時で

もない今が十分に満たされている  
と想い、一年一年を大切にしてい  
きたいです。



町田市障がい者就労・  
生活支援センター りんく  
支援センター ソラール

管理者 藤本 英理子

新年度を迎え、りんく、支援セ  
ンター ソラール(就労移行支援・  
自立訓練)両センターでは新しい  
職員も加わり、新しいスタートを  
切りました。新しい職員と一緒に、  
より一層支援にまい進していく所  
存です。

りんくでは、毎年「社会人講座」

りんくサタデー」を開催し、働く障  
害のある方の生活支援を行っていま  
したが、新型コロナウイルス感染症  
の影響でこの2年は開催が出来ませ  
んでした。楽しみにして下さる登録  
者の方も多く、今年度こそ再開した  
と考えていますが、感染状況を考  
えると悩ましいところです。「皆で  
集まって」という形式が難しくても、  
今年度は皆さんのために出来ること  
を考えていきたいと思っています。

新卒者の方々にも登録頂き、四月  
から社会人として新しい一歩を踏み  
出した方々も多く、少しでも「働く  
生活を支える」事が出来るようにし  
ていきたいと思っています。

支援センター ソラールでは、  
今年度も事業所内で作成した農作  
物やブックカバー、メモ帳等を町  
田市役所での販売会に参加し販売  
を継続していきます。りんくも含  
め、新型コロナウイルス感染症の  
影響で実習や見学、採用活動の縮  
小等、様々な影響を受けた部分が  
あり、この販売会も利用されてい  
る皆さんの貴重な「体験」の場と  
なっています。今作成しているも  
の以外でも、利用者の方々が制  
作したもので少しでも実際に「収  
入を得る」という場を設けていけ  
るようにしていきたいと思っています。

つるかわ学園  
相談支援センター こころ

管理者 芹澤 政人

新年度の相談支援事業の取組みについて

町田市においては、国の考えに基づき町田市障がい福祉事業計画（第五期計画）に令和四年度末までに地域生活支援拠点等の整備を行うことになっていきます。地域生活支援拠点等とは、障がいのある人の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、①親元からの自立等の相談、②グループホーム等の体験・場、③緊急時の受け入れ、④専門的人材の確保・育成、⑤地域の体制づくりの機能を備えた拠点やそれらの機能を分担した面的な支援を行うものです。

市内の障害者・児の総合的な相談支援の受け皿である五つの各地域障がい者支援センターや基幹相談支援センター（相談支援専門員の育成体制、権利擁護・地域移行や地域定着支援等といった、より専門的な相談支援の役割等、町田市では障がい福祉課が役割を担う）に来た相談をもとに、相談者が抱える生活上の悩みや課題を洗い出し、相談支援事業所等と連携して

いく必要があると考えます。

例えば緊急時の受け入れでは、福祉サービスに繋がっていない方へのアプローチや各関係機関が共有するためのツールづくり等、自立支援協議会（町田市障がい者施策推進協議会）の相談支援部会においても検討がされております。

質の高い相談支援体制の構築には、相談支援事所の運営基盤の安定や相談支援専門員の人材育成、確保は重要課題となります。今年度も継続して、相談支援体制の整備とともに地域の各関係機関との連携強化を行っていきたくと考えております。



つるかわ学園

～ありがとう～

株式会社 正栄デリシィ様よりお菓子のご寄付

今回も沢山のチョコレートのお菓子をいただきました。

施設内での1番人気は「チョコ次郎」です。チョコジローのたのしいおしゃべりを楽しみながらいただきました。利用者さんと職員で作成したお礼のメッセージになります。

温かいお心遣いに、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございます。



つるかわ学園  
ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!  
HP: [tsurukawa-gakuen.com](http://tsurukawa-gakuen.com)



つるかわ学園を

支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこつとした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一口年額三千元ですが、ひとり何口か入っていただくことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇—〇〇—七—一九四〇二九  
加入者

社会福祉法人 つるかわ学園